

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410037	X-32-B-2-410037	2	後期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			【3年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
応用ゼミナール2	今井 裕紀			【1-3年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	2年
				【1-3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
		【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×		
ゼミテーマ・タイトル							
組織における人間行動の基礎知識と課題解決力の習得							
内容							
<p>本授業では、事例分析演習、レクチャー、地域でのグループ活動を通じて、組織における人間行動について基礎知識を習得するとともに、実践的な課題解決力を身につけます。</p> <p>事例分析演習は、実際の経営事例にもとづいて作成されたケース教材を読んで、内容について議論するものです。テーマは、キャリア、集団、リーダーシップなどです。</p> <p>レクチャーでは、主に事例演習で扱ったテーマについて、事例演習の議論と関連させながら、経営学における組織行動論の観点から解説します。事例演習とレクチャーを相互に行うことで、組織における人間行動について実践的に理解していきます。</p> <p>地域でのグループ活動は、地域と連携しながら、地域の課題解決に貢献するようなプロジェクトを立案し、実行するものです。地域の課題解決に向けた取り組みを行うことで、経営課題の解決にあたって必要なスキルや心構えなどを理解していきます。</p> <p>地域でのグループ活動をどの程度実施するかは、地域との連携の状況によって変わります。適切な連携先がない場合や連携先の都合がつかない場合には実施しないこともあります。その場合はグループで調査分析課題に取り組みます。</p> <p>学んだ内容に関するレポート課題、グループ・プレゼンテーション課題を出題します。</p> <p>【事前・事後の学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業前に、配布資料を読み込むこと。 ・授業後に、授業で学んだことを自分の身の回りの事象や、新聞などで報じられている企業の経営課題に当てはめて考えること。 ・授業前および後に、地域でのグループ活動に必要な準備や活動の振り返りを行うこと。 ・各回の予習復習に4時間必要となる。 							
使用予定テキスト							
<p>教科書は用いず、配布資料を用います。事例分析に用いる教材費（1,000円～1,500円程度）を授業中に回収します。</p> <p>地域活動をする場合は交通費等の実費がかかります。</p>							
ゼミの進め方							
<p>グループワークを行いながら授業を進めます。</p> <p>グループ活動やグループ・プレゼンテーションにあたっての活動や調査の手法については適宜アドバイスします。</p>							
成績評価基準							
クラス・グループ活動への貢献（50%）、レポートおよびプレゼンテーション（50%）							
ゼミ選択上のアドバイス							
<p>このゼミナールでは積極的に意見を表明すること、グループで共同作業を行うことが求められます。</p> <p>土曜日曜に学外で地域と連携した活動（イベントの主催、手伝い等）を行うことがあります。</p>							
実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性						アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
×							○
その他							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410037	X-32-B-2-410037	2	後期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【3年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
応用ゼミナール2	小宮山 智志			【1-3年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	2年
				【1-3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
		【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×		
ゼミテーマ・タイトル							
アイデアを生み出す方法を身に着けよう！							
内容							
<p>大学は“自分の頭”と“他人の頭”を利用して、新しく正しく社会的意義のある知識を創造する(=研究する)ところです。高校までは自分の頭で考えることを身に着けてきました。もちろん自分の頭で考えることは大切ですが、仕事となると自分だけで目的の95%を達成することよりも、他人と協力して100%、いや今まで以上の成果を出すことを求められるようになります。</p> <p>この演習では集団で思考することを学びます(“ブレインストーミング”と呼びます)。新しい知識を作り出すためにはアイデアが必要です。各自の頭の中にある知識をすべて出し尽くし、さらにそれらを結合させ、アイデアを作り出すことを徹底して学んでいきます。</p> <p>そして私たちが考えたアイデアを、実際に地域で試行してみましよう。いままで先輩たちが試行してきた例の一部を紹介します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進的な地域をSNSで発信：全国に先駆け、地域で農業法人化、農家民泊、6次化などを始めていた地域を調査し、活動の発信・販売促進のお手伝いをしました。また地域の小学生とも協力して、継続して発信していく仕組みも考えました。 ・内野町おこしのための「1日限定の喫茶店」を開店：地域の食材を使い内野町をアピールすること、そして内野町に若者を呼び込むことを目指しました。 ・地酒試飲会：地域の地酒を試飲してもらい、評価をもらい、そのような人びとが、どの種類のお酒を好むか調査しました。 ・地域の食材を使った新商品の開発：地域の祭りで、自分たちがアレンジした、地域の伝統食を販売しました。 ・パブリックビューイングの開催：2014年ワールドカップのパブリックビューイングを新潟国際情報大学で開催しました。地域の方にも大勢ご参加いただきました。 ・みずき野飲食店マップ作成：みずき野の飲食店にご協力頂き、飲食店マップを作成しました。 ・ペーパークラフト作成：オリジナルなペーパークラフトを作成し、地域の祭りで販売しました。どのようなデザインのもの好まれるか、調査しました。 <p>活動内容はグループワークで相談しながら決定します。また活動内容を口頭発表する準備をします。発表練習をととして、プレゼンテーションを学びます。発表内容をレポートにまとめることで、レポートの書き方などを学びます。また全体をととして“研究する”とは何かを学びます。</p> <p>【事前・事後学習】調査・実験などの課題(15時間相当)を行なってもらいます。</p>							
使用予定テキスト							
<ul style="list-style-type: none"> ・世界思想社編集部編、2018『大学生 学びのハンドブック』世界思想社。 ・映像資料 NHK、2011『スタンフォード白熱教室』など(適宜配布)。 							
ゼミの進め方							
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、数名でグループワークを行います。 ・実際に地域での活動を通して、アイデアを実践します。 							
成績評価基準							
各回のグループワークでの活躍(50%)と、レポートで評価します(50%)。グループワークでアイデアを出すことはとても重要です。それと同時に、各自でアイデアを文章にまとめる力も養います。どちらもイーブン(50%ずつ)で評価します。グループワークを通して、フィードバックします。							
ゼミ選択上のアドバイス							
これから社会は、変化していきます。そして変化に適応した新しい知識を生み出し続けることを求められます。大変なようですが、方法を身に着ければ、様々な人々がそれぞれの視点を生かして活躍できる社会でもあります。周りの人の力を引き出し、そして自分自身の能力を開花させたい人は、ぜひご検討ください。							
実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性						アクティブラーニング(ディスカッション、グループワーク、発表等)の実施
×							○
その他							
<ul style="list-style-type: none"> ・集団で活動します。ゼミにおいて無断欠席は認めません。全員に迷惑が及びます。可及的速やかに連絡してください。 ・虚偽の申告をした方は、単位の取得はできません。 							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年	
410037	X-32-B-2-410037	2	後期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×	
授業科目				担当教員	【3年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
応用ゼミナール2	佐々木 宏之			【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×	
				【1-3年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	2年	
				【1-3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×	
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×	
			【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×		
ゼミテーマ・タイトル								
心理学研究を進めるための基礎スキルの習得								
内容								
<p>心理学研究を進めるための基礎スキルとして、英語論文の読解力と統計処理能力が必須となる。自分の研究分野の研究動向を把握するためには国際専門誌の英語論文を読むことが欠かせない。また、実験・調査で得られたデータから仮説を検証するには統計学的な根拠が必要になる。</p> <p>そこで、これら研究活動に必要な基礎スキルを養うため、前半で英語論文抄読、後半でExcelを使った統計処理の課題解決型学習を行う。</p> <p>①英語論文抄読 社会心理学に関する英語論文</p> <p>②Excelによる統計解析入門 t検定・・・2つの平均の比較 カイニ乗検定・・・クロス集計表の独立性検定 相関分析・・・変数間の関係性の検定 一元配置分散分析・・・3つ以上の平均の比較 二元配置分散分析・・・2要因の主効果と交互作用の検定 テキスト解析・・・テキストデータの計量分析 ディプロマポリシーとの関連：情報技術の利活用方法を修得し、仕事や生活に活用できること。 【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】</p>								
使用予定テキスト								
「英語で学ぶ社会心理学」有斐閣ブックス 「Excelで今すぐはじめる心理統計」講談社 「社会調査のための計量テキスト分析」ナカニシヤ出版								
ゼミの進め方								
①英語論文抄読 1～3文ずつ交代で英文和訳を発表する。頻出専門用語を確認し、心理学の研究法を解説する。 ②Excelによる統計解析入門 必携パソコンを用いて各自データ分析し、分析結果をレポート提出する。								
成績評価基準								
論文抄読に対する取り組み（60%）、分析結果レポート（40%）								
ゼミ選択上のアドバイス								
1年次前期科目「統計学」を復習すること。 英語論文抄読は論文和訳の予習が必須である。								
実務経験のある 教員による授業 科目有無	実務経験と授業科目との関連性					アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施		
×						○		
その他								

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410037	X-32-B-2-410037	2	後期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【3年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
応用ゼミナール2	佐々木 桐子			【1-3年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	2年
				【1-3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
		【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×		
ゼミテーマ・タイトル							
「データ分析力」と「コミュニケーション力」の育成							
内容							
このゼミナールでは、前半は、需要予測に関する様々な手法を適時的確に使い、得られた結果を正しく解釈し、適切に表現できる能力を育成します。後半は、ビジネスゲームを通じて、より実践的なデータ分析能力、プレゼンテーション能力を養います。また、他者とコミュニケーションをとりながら協調して作業したり、グループをまとめることができる能力を養います。							
【授業内容】							
・需要予測（直線回帰、指数曲線、移動平均、指数平滑など） 個別に演習課題に取り組み、成果を発表します。							
・ビジネスゲーム グループで演習課題に取り組み、成果を発表します。							
【関連するディプロマポリシー】							
・健全な社会生活を営むための常識持ち、他者と協力して問題解決にあたることができること。							
・情報や情報システムの活用方法を修得し、仕事や生活に活用できること。							
【事前・事後学習】							
・毎回、予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出してもらいます。							
使用予定テキスト							
毎回の授業で資料を提示します（購入の必要はありません）。							
ゼミの進め方							
前半は個別課題、後半はグループ課題になります。 授業では、Excelを使用します。基本的なExcelの使い方（表やグラフの作成、数式等）から丁寧に指導しますので、苦手意識を持った学生でも、じっくりと理解を深めることができます。							
成績評価基準							
・毎回の授業への取組評価：20%							
・成果物（課題や発表）の評価：80%（需要予測40%、ビジネスゲーム40%）							
＜フィードバック＞							
提出された課題は、採点后、返却・解説をおこないます。							
発表後は、それぞれの発表に関する講評をおこないます。							
ゼミ選択上のアドバイス							
今は苦手意識があっても構いません。 「データ分析力」、「コミュニケーション力」を養いたい、と思っている学生を歓迎します。 また、孤立することなく、お互いが学びあい、理解を深めあえる環境を大事にしていきます。							
実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性						アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
×							○
その他							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年	
410037	X-32-B-2-410037	2	後期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×	
授業科目				担当教員	【3年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
応用ゼミナール2	土屋 翔			【1-3年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×	×
				【1-3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×	
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×	
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×	
ゼミテーマ・タイトル								
地域発展における飲食経営の役割—実店舗の経営改善を起点として—								
内容								
<p>本ゼミナールは以下の大まかな内容で展開していく。</p> <p>1) 実店舗周辺の地域における現状調査</p> <p>2) 飲食店の地域における役割を考察</p> <p>3) 地域発展のための飲食店における経営改善を提案</p> <p>以上の内容をグループ単位で調査、考察、提案を行ってもらう。</p> <p>相互で意見を出し合い、より良い経営改善案を出してもらう。</p>								
使用予定テキスト								
特になし。								
ゼミの進め方								
テーマを出し、テーマに沿って調査を行ってもらう。ほとんどが、グループワークになることを前もって理解して欲しい。また、場合によっては応用ゼミナールの時間を変更して土、日（1、2回を想定）に実店舗見学に行く可能性がある。								
成績評価基準								
成果物（50%）、授業貢献度（50%）								
ゼミ選択上のアドバイス								
薄々気づいている学生もいると思いますが、少し厳しいゼミナールだと思います。自身の考えを多く求めるので、受動的な学生はオススメできません。多くの視点を得たい、経営学を知りたいという学生にオススメです。								
実務経験のある 教員による授業 科目有無	実務経験と授業科目との関連性						アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施	
×							○	
その他								
講義時間外でのグループワークがあります。予習復習に4時間をしっかりと確保して下さい。								

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年	
410037	X-32-B-2-410037	2	後期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×	
授業科目				担当教員	【3年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
応用ゼミナール2	藤瀬 武彦			【1-3年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	2年	
				【1-3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×	
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×	
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×	
ゼミテーマ・タイトル								
少子高齢社会において運動・スポーツがどう貢献できるかを考える								
内容								
<p>日本は近い将来に約3人に1人が高齢者という極端な少子高齢社会を迎え（2018年高齢化率27.7%）、医療費や介護費などが高騰して国民の負担が非常に重くなることが予想される（2018年の医療費は約42兆6000億円）。従って、各々が健康体力づくり（介護予防を含む）に関する知識をもつことが必要であり、またその実践が重要であることは言うまでもない。この授業では健康体力づくりに関する身体機能、食事、運動などについて学ぶとともに体力測定などを実施し、また運動・スポーツ施設やその運営・経営についても考え、今日の高齢社会や情報社会で活躍するための知識を身に付ける。</p> <p>その主な内容は以下に示した通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ガイダンス（超高齢社会における健康体力づくり及び医療や介護の実態など） 2) 生活習慣病とは、その予防改善方法について 3) フィットネスクラブやスポーツ競技力向上のためのトレーニング施設 4) 運動施設の紹介①（学生のプレゼンテーション） 5) 運動施設の紹介②（学生のプレゼンテーション） 6) 運動施設の紹介③（学生のプレゼンテーション） 7) 運動施設の紹介④（学生のプレゼンテーション） 8) 運動施設の経営について①（アメリカのスポーツビジネスなど） 9) 中・高齢者の筋力トレーニングと運動施設の経営について② 10) 運動施設を経営する①（学生のプレゼンテーション） 11) 運動施設を経営する②（学生のプレゼンテーション） 12) 運動施設を経営する③（学生のプレゼンテーション） 13) 運動施設を経営する④（学生のプレゼンテーション） 14) 外国人の日本人経営者論① 15) 外国人の日本人経営者論②及びまとめ <p>【予・復習と必要時間】 各回の授業を受けるために回毎に示したキーワードに関する予習復習を2時間必要とする。</p>								
使用予定テキスト								
PowerPoint を使用して提示します。								
ゼミの進め方								
講義形式及び演習形式など。								
成績評価基準								
出席（演習）60点及び課題（レポートなど）40点。								
ゼミ選択上のアドバイス								
スポーツ・フィットネス業界に興味のある学生は、その基礎が学べます。								
実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性						アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施	
×							×	
その他								
PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行ってまいります。								

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年	
410037	X-32-B-2-410037	2	後期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×	
授業科目				担当教員	【3年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
応用ゼミナール2	藤田 晴啓			【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×	
				【1-3年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	2年	
				【1-3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×	
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×	
			【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×		
ゼミテーマ・タイトル								
お気に入りフィギュアでホログラム作成から、AIによるディープラーニング、統計解析によるマーケティングまで幅広い最新のデータサイエンス5つのテーマ								
内容								
以下5つのテーマをすべて体験できます。グループワークが中心となります 1) お気に入りフィギュアでホログラム(複合現実)自作体験とビジネス展開ディスカッション 2) AIの基本知識、人口知能とは何なのか?サクラ、バラ、ヒマワリの画像から花の種類を自動判別するディープラーニング体験 3) スーパー入客数やビール出荷量をExcelを使った数量化理論I類モデルで簡単に予測 4) ヒトの異なる行動や性格項目の関連性をみいだすχ ² 検定-オシャレな人は他人愛より自己愛が強い!? 5) レストランを開業する場合、複雑な顧客の嗜好性を比較できるコンジョイント分析によるマーケティング それぞれの項目は3回ずつの講義+実習を行います(基準ですので多少の変更はあります) 詳細は、添付文章を参照してください(理解する必要はありません) 各回の予習・復習に4時間程度を要する								
使用予定テキスト								
テキストは使用せず資料等配布します								
ゼミの進め方								
講義およびノートPCを使用した演習形式 ディープラーニング体験はすでに実行コードが組み込まれたファイルを配布して各自のPC上で実行します 藤田晴啓研究室のTA2名が皆さんの作業やわからないことを丁寧に補佐します 毎回のゼミナールは楽しく体験することが目的です								
成績評価基準								
個人あるいはグループレポート提出により評価 ホロレンズコンテンツは他グループが評価								
ゼミ選択上のアドバイス								
ビジネスイノベーションにデータサイエンスは不可欠、経営学科だからこそ学習・マスターする必要があります。 グループワーク中心なので無断欠席は厳禁 他のメンバーに迷惑をかけるので可能な限り欠席をしないでください								
実務経験のある 教員による授業 科目有無	実務経験と授業科目との関連性						アクティブラーニング(ディスカッション、グループワーク、発表等)の実施	
×							○	
その他								
レポートは他人のものを流用することは厳禁、AIが剽窃を簡単に見つけます。この場合誰が流用したかは関係なしに、極似レポート提出者全員単位を落とすことになるので、気をつけてください								

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年	
410037	X-32-B-2-410037	2	後期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×	
授業科目				担当教員	【3年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
応用ゼミナール2	山下 功			【1-3年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×	×
				【1-3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×	
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×	
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×	
ゼミテーマ・タイトル								
Excel 活用術								
内容								
<p>Microsoft Excel や Apache OpenOffice などの表計算ソフトウェアは、様々な組織の業務を効率化するために広く利用されています。また、反復的かつ高速に計算ができるため、会計に関する処理にも適しています。この授業を履修することによって、様々な業務に役立つ Microsoft Excel の使い方を修得することができます。</p> <p>【主な授業内容】</p> <p>Microsoft Excel の基本的な技法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な集計表の作成 ・入力工夫と簡略化 ・エラーチェックの方法 ・定型メッセージを表示する ・データベースとして使用する <p>Microsoft Excel を使用した簡単な会計処理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小遣い帳と家計簿 ・金利計算 ・減価償却 ・商品有高帳 <p>Microsoft Excel の業務への応用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストデータの活用 ・他人に配慮したフォームの作成 <p>【関連するディプロマポリシー(学位授与方針)】</p> <p>健全な社会生活を営むための常識を持ち、他者と協力して問題解決にあたるができること。</p> <p>情報や情報システムの利活用方法を習得し、仕事や生活に活用できること。</p> <p>【アクティブラーニングの実施】実習を実施します。</p> <p>【予習復習】毎回 180 分相当の予習復習が必要です。</p>								
使用予定テキスト								
テキストを使用しません。								
ゼミの進め方								
必携パソコンを使って、Microsoft Excel を活用する方法を学習します。								
成績評価基準								
課題レポートや授業への取り組みなどに点数をつけて評価します。								
ゼミ選択上のアドバイス								
Microsoft Excel をもっと使えるようになりたい、という強い意志がある学生を求めています。なお、この授業で必要な会計の知識を授業中に説明しますので、「簿記基礎」「財務会計論」「管理会計論」を履修していなくても問題ありません。								
実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性						アクティブラーニング(ディスカッション、グループワーク、発表等)の実施	
○	上場企業で経理業務・会計情報システム構築などに従事した教員が、実務における表計算ソフトウェアの活用方法を指導します。						○	
その他								
【学習到達目標】								
Microsoft Excel の基本的な技法を修得し、業務へ応用することができる。								
Microsoft Excel で簡単な会計処理ができる。								

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習